

# SBP : Small Business Package

## NC1505BCK

— データ照合型 —



# 取扱説明書

2018年2月27日 第1.3a版

日栄インテック株式会社

Auto-ID グループ

# 目次

1. 用語について.....	3
2. 使用制限について.....	3
3. PC 動作環境.....	3
4. PC 設定.....	4
4-1. 設定の流れ.....	4
4-2. 「Active USB-COM ポートドライバ」のインストール.....	4
4-3. 「NC1505BCK 受信アプリ」のインストール.....	4
4-4. 通信モジュール使用の為のライセンス登録.....	5
4-5. 「NC1505BCK 受信アプリ」の設定.....	6
5. PC 側操作.....	7
5-1. 受信.....	7
5-2. HT 設定受信.....	8
5-3. HT 設定送信.....	9
5-4. ハンディプログラム更新.....	10
6. HT 側操作.....	11
6-1. 基本操作.....	11
6-2. メインメニュー.....	11
6-3. データ照合.....	12
6-3-1. データ照合の流れ（1：1）.....	12
6-3-2. データ照合の流れ（1：N）.....	13
6-4. データ確認.....	14
6-5. データ送信.....	15
6-6. 担当者設定.....	16
6-7. データ初期化.....	16
6-8. システム設定.....	17
6-8-1. 照合設定.....	18
6-8-1-1. 照合回数.....	18
6-8-1-2. 照合桁.....	18
6-8-1-3. 照合条件.....	19
6-8-1-4. NG 時取り扱い.....	19
6-8-2. データ保存設定.....	20
6-8-3. 送信後データ設定.....	20
6-8-4. バーコード設定.....	21
6-8-4-1. バーコード種一覧.....	21
6-8-4-2. JAN13,UPC-A.....	21
6-8-4-3. JAN8.....	22
6-8-4-4. UPC-E.....	22
6-8-4-5. ITF (Interleaved Two of Five).....	22

6-8-4-6. NW-7 (CODABAR).....	23
6-8-4-7. Code39 .....	23
6-8-4-8. Code93 .....	23
6-8-4-9. Code128,GS1-128.....	24
6-8-4-10. STF (Standard Two of Five) .....	24
6-8-4-11. GS1-Databar (RSS).....	24
6-8-5. 端末 ID 設定.....	25
6-8-6. 日時設定.....	25
6-8-7. 自動電源 OFF 設定 .....	25
6-8-8. 音(バイブ)設定 .....	26
6-8-9. 設定初期化 .....	26
7. 販売者情報 .....	27

# 1.用語について

本書に出てくる用語について、次の通り定義いたします。

「本システム」・・・NC1505BCK

「PC」・・・Windows パソコン

「HT」・・・NC1505BCK がインストールされたバーコードハンディターミナル (BHT-1500B)

「CU(クレードル)」・・・CU-AU1-15 (PC と HT 間で通信するための通信ユニット)

「USB ケーブル」・・・PC と CU を接続する USB ケーブル

「マスタバーコード」・・・照合元となるバーコードのことです。

「データバーコード」・・・照合先となるバーコードのことです。

## 2.使用制限について

本システムでは、HT で収集したデータを PC に受信する為の、PC 側プログラム (NC1505BCK 受信アプリ) が付属しています。このプログラムを使用する際には、はじめにアクセスコードを登録する必要があります。

原則として、PC1台のみがインストール可能です。但し、やむを得ない状況により、その PC での使用が不可能になった場合は、別の PC にインストールして使用することができます。

弊社から御購入いただいた NC1505BCK 用の HT には、HT 側プログラムがあらかじめインストールされ、ライセンス認証がなされています。この HT 側プログラムは、機能改善などでアップデートされた場合、PC 側プログラム (NC1505BCK 受信アプリ) から最新プログラムを送信することができますが、送信できるのは、弊社から御購入いただき、既にライセンス認証されている HT のみが対象となります。

**弊社以外で購入された HT へ PC 側プログラムから HT プログラムを送信しても、その HT では NC1505BCK は動作いたしませんので、ご注意ください。**

## 3.PC 動作環境

Microsoft Windows 7 (32bit/64bit) 以降

Microsoft Excel 2007 以降 ※出力形式に Excel を使用する場合

# 4. PC 設定

本システムを稼働させるにあたり、PC 側の設定が必要になります。ここでは、その設定手順について記載します。

※HT 側でデータ保存を行わず、PC で受信する必要がない運用の場合は、この設定は必要ありません。

## 4-1. 設定の流れ

- (1) 「Active USB-COM ポートドライバ」のインストール(※導入時のみ)
- (2) 「NC1505BCK 受信アプリ」のインストール(※導入時のみ)
- (3) 通信モジュール使用の為のライセンス登録(※導入時のみ)
- (4) 「NC1505BCK 受信アプリ」の設定(※導入時、および運用方法変更時)

※(1)～(3)の PC 作業は管理者権限にてログオンし、実施して下さい。

## 4-2. 「Active USB-COM ポートドライバ」のインストール

HT から PC へデータを受信するために、PC と CU を接続する必要がありますが、接続する前に、HT のメーカーが用意している「Active USB-COM ポートドライバ」をインストールする必要があります。「Active USB-COM ポートドライバ」は本システム CD 内の以下のフォルダにあります。

CD:¥ ActiveUSBCOM\_J20105

インストールは、同フォルダ内の「**setup.exe**」を使用しますが、インストール方法については、同フォルダ内にある「ActiveUSBCOM\_Installation\_Guide\_J.pdf」を参照いただき、インストールを行って下さい。

## 4-3. 「NC1505BCK 受信アプリ」のインストール

「Active USB-COM ポートドライバ」により物理的な接続が完了したら、次は HT から PC へデータを受信するためのプログラム「NC1505BCK 受信アプリ」をインストールする必要があります。「NC1505BCK 受信アプリ」は本システム CD 内の以下のフォルダにあります。

CD:¥ NC1505BCK 受信アプリ

- (1) 「**NC1505BCK\_Setup.exe**」を実行し、案内にしたがってインストールを完了させてください。
  - (2) インストールが完了すると、デスクトップ上に「NC1505BCK 受信アプリ」というショートカットができます。
- ※「NC1505BCK 受信アプリ」の動作には「Microsoft .NET Framework4.5」が必要になります。インストールされていない場合、自動的に「Microsoft .NET Framework4.5」のインストールも行なわれます。
- ※インストール中に「ユーザーアカウント制御」や「Windows セキュリティ」画面では、[はい]や[続行]など肯定応答を行って下さい。

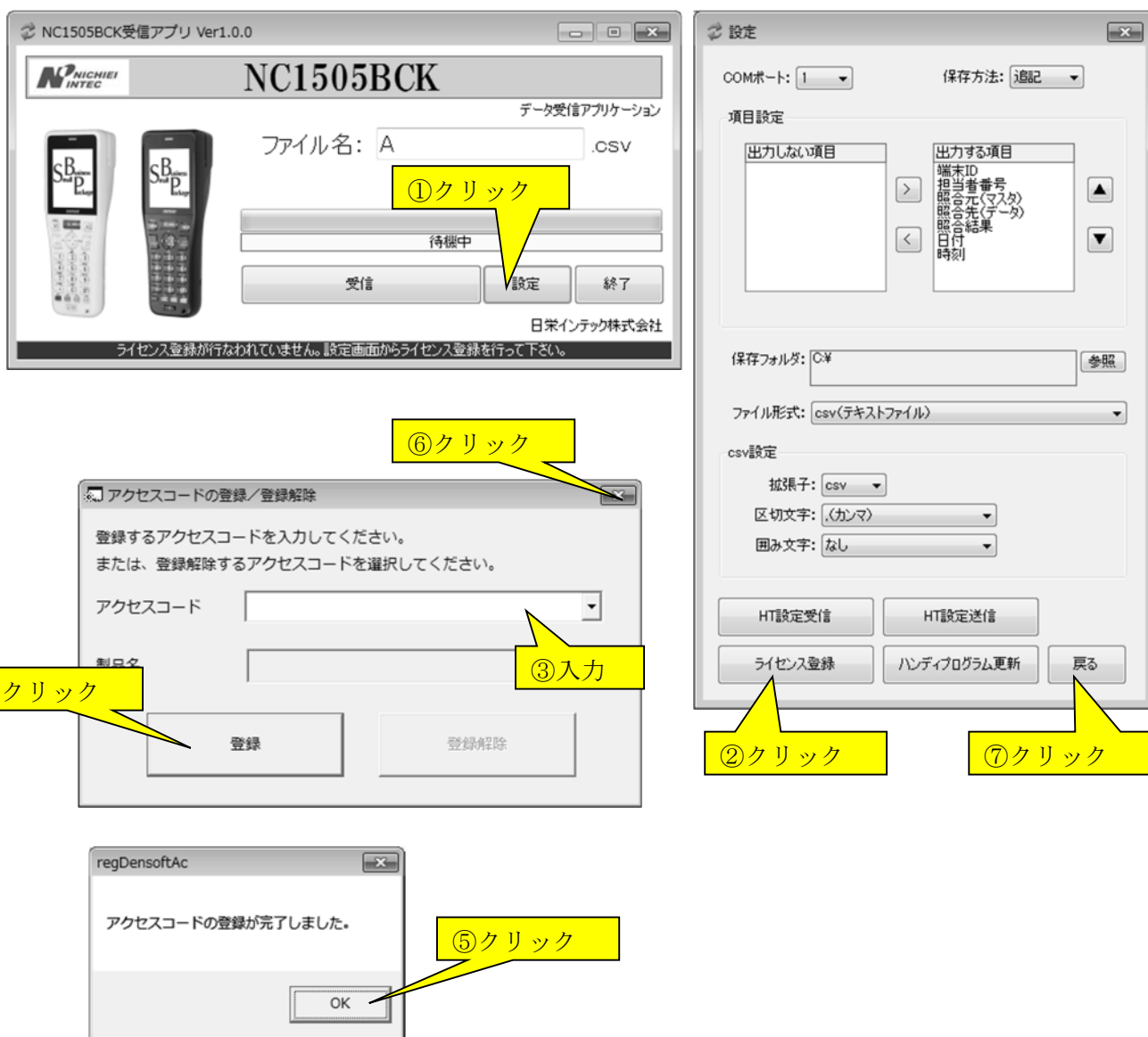
## 4-4.通信モジュール使用の為のライセンス登録

HTとPC間で通信を行う場合、HTのメーカーが提供しているツールを使用します。このツール使用の為、ライセンス登録が必要となりますので、ここで登録を行います。

- (1) デスクトップ上の「NC1505BCK 受信アプリ」をダブルクリックし、実行してください。まだライセンス登録が行なわれていないので、画面下部にアラームが表示されています。[設定]ボタンをクリック(①)して下さい。
- (2) 設定画面が表示されます。左下の[ライセンス登録]ボタンをクリック(②)して下さい。  
※ユーザーアカウント制御画面が表示される場合は[はい]をクリックして下さい。
- (3) アクセスコードに以下の値を入力(③)し、[登録]をクリック(④)して下さい。

アクセスコード:4964901159000390-9480353667

「アクセスコードの登録が完了しました。」という画面が出たら、[OK]をクリック(⑤)し、登録画面は右上の[×]をクリック(⑥)して閉じてください。設定画面で[戻る]をクリック(⑦)して、最初の画面に戻ると画面下部のアラームが消えたら、ライセンス登録完了です。



## 4-5. 「NC1505BCK 受信アプリ」の設定

「NC1505BCK 受信アプリ」の設定を行います。デスクトップ上の「NC1505BCK 受信アプリ」をダブルクリックし、実行してください。その後、[設定]ボタンをクリックし、右の設定画面を表示して下さい。



COM ポート	「Active USB-COM ポートドライバ」インストールで作成された COM ポート番号を指定します。Windows の「デバイスマネージャー」の「ポート (COM と LPT)」に存在する「DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM?) - Connected」の、COM? の部分がポート番号となります。例えば、ここが「COM3」ならば、ここでは「3」を設定します。
保存方法	指定されているファイルが既に存在する場合に、追記するか上書きするかを設定します。
項目設定	出力する項目を選択します。デフォルトでは全てを出力する設定になっています。出力したくない項目がある場合は、出力する項目リストで、その項目をクリックして、[<]をクリックすると、出力しない項目リストに移動されます。出力したくない項目リストに出力したい項目がある場合は、その項目をクリックして、[>]をクリックすると、出力する項目に移動されます。出力する項目リストにあるものは項目順を変更できます。移動したい項目をクリックして、[▲]/[▼]で移動できます。
保存フォルダ	出力先フォルダになります。[参照]ボタンをクリックして、フォルダを指定してください。※必ず書き込み権限があるフォルダを指定してください。
ファイル形式	テキストファイルか Excel ファイルかを指定します。
csv 設定	拡張子、区切文字、囲み文字を選択します。区切文字とは、項目間を区切る文字です。通常、csv ファイルでしたらカンマが使用されます。囲み文字とは、各項目の両端に付加する文字です。

※設定内容は[戻る]をクリックした際に確定されます。設定内容がどのように反映されるか、必ず運用前に受信テストを行って下さい。

※Excel ファイルは、そのファイル形式により件数制限があります。「保存方法」に「追記」を設定している場合、件数制限を超えないようご注意ください。制限を超えるとファイル出力に失敗します。

# 5.PC 側操作

「NC1505BCK 受信アプリ」は次のことができます。これらの操作を行う前に、かならず「NC1505BCK 受信アプリ」の設定を行っておいて下さい。

HT で収集されたデータを受信し、PC 上にテキストファイルか Excel ファイルで出力します。

HT で設定された「システム設定」情報を、ファイルとして受信して保存できます。

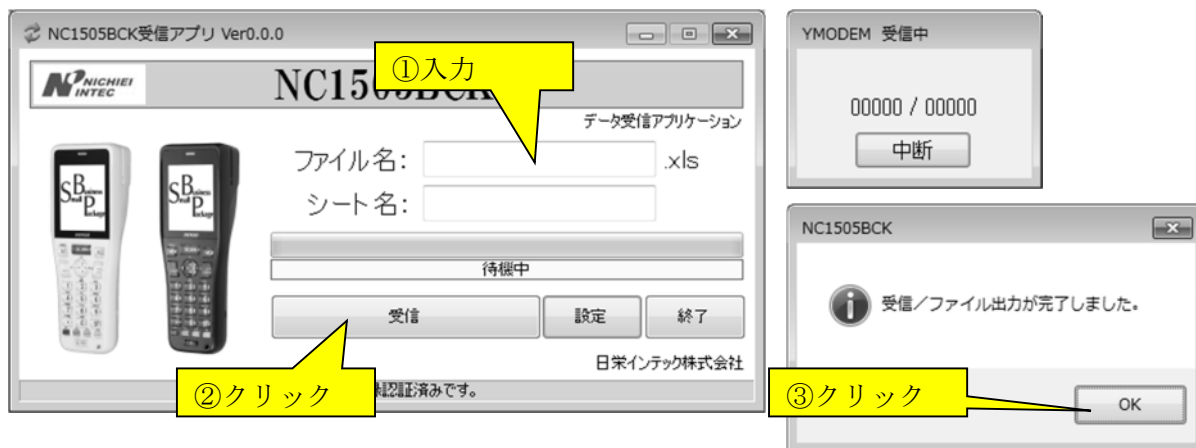
保存された「システム設定」情報のファイルを HT へ送信できます。

弊社から提供する HT の最新プログラムを、HT へ送信できます。

## 5-1.受信

HT から収集されたデータを受信します。

- (1) ファイル名 (Excel の場合はシート名も) 入力①してください。この入力値は保存されますので、次回も同じファイルであれば、入力は1回限りです。
- (2) [受信]をクリック②すると、受信が開始され、「YMODEM 受信中」という画面で進捗が表示されます。受信が完了すると、次に受信ファイルを加工して、指定されたファイルへ出力を行います。その進捗は[受信]ボタンの上のプログレスバーで確認できます。
- (3) 「受信／ファイル出力が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック③してください。



### ※補足/注意点※

受信時は、出力先のファイルは触らないで下さい。他のアプリケーションによってオープンされていると、受信後のファイル出力が失敗します。保存フォルダにファイルが作成できるか否か、事前にご確認ください。書き込み権限がないと、受信後のファイル出力が失敗します。

「受信」→「ファイル出力」という流れで処理が行なわれますが、「受信」が成功した段階で HT 側では送信済みデータは削除されます(削除しない設定も HT 側でできます)。上記などの原因により、「受信」が成功した後に「ファイル出力」が失敗した場合、データが失われてしまわないように、本プログラムは次のように振る舞います。

前回、「受信」が成功し、かつ「ファイル出力」が失敗している場合に[受信]ボタンがクリックされると、「前回受信分がファイル出力に失敗しています。前回分のファイル出力を行いますか?」というアラームが表示されます。ここで[はい]をクリックすると、前回受信したファイルをファイル出力します。[いいえ]をクリックすると、新たなデータを受信します(この場合、**前回分のデータは失われますので十分ご注意ください**)。



## 5-2.HT 設定受信

HT 側プログラムの「システム設定」で設定された情報をファイルとして PC 側に保管することができます。保管した情報は、HT で「システム設定」を誤って変更してしまった場合のバックアップにもなります。また、複数の HT で運用する場合、1台で設定した「システム設定」の内容を、他の HT にも反映させることができます。

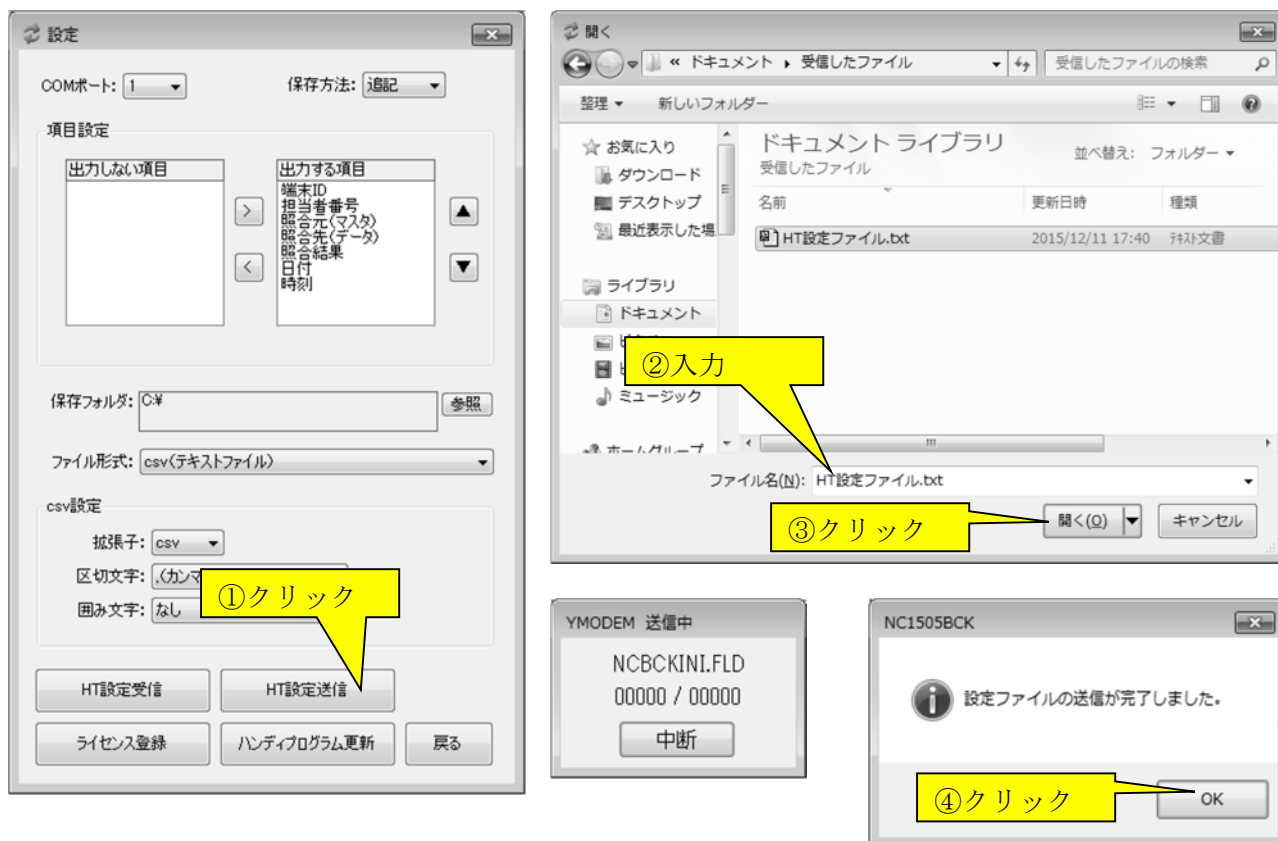
- (1) 設定画面で、[HT 設定受信]をクリック(①)します。
- (2) 「名前を付けて保存」ダイアログ画面が表示されますので、フォルダを選択して、ファイル名を入力(②)して、[保存]をクリック(③)してください。受信が開始され、「YMODEM 受信中」という画面で進捗が表示されます。
- (3) 「設定ファイルの受信が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック(④)してください。



## 5-3.HT 設定送信

HT 設定受信にて受信し保存した「システム設定」情報ファイルを、HT へ送信します。送信先 HT の「システム設定」情報が更新されます。

- (1) 設定画面で、[HT 設定送信]をクリック①します。
- (2) 「開く」ダイアログ画面が表示されますので、「システム設定」情報ファイルを選択して、[開く]をクリック③してください。送信が開始され、「YMODEM 送信中」という画面で進捗が表示されます。
- (3) 「設定ファイルの送信が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック④してください。



## 5-4.ハンディプログラム更新

HT 側プログラムに問題がある場合、弊社から最新の HT プログラムを提供させていただく可能性があります。本処理は、その場合に HT へプログラムを送信する機能です。

- (1) 設定画面で、[ハンディプログラム更新]をクリック(①)します。
- (2) 「開く」ダイアログ画面が表示されますので、HT プログラムファイルを選択(②)して、[開く]をクリック(③)してください。送信が開始され、「YMODEM 送信中」という画面で進捗が表示されます。
- (3) 「プログラムファイルの送信が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック(④)してください。



### ◆HT 側のプログラム受信方法◆

- (1) HT の電源を OFF にしてください。
- (2) [SF]と[1]を押したまま、電源ボタンを押します。「SYSTEM MENU」が表示されます。※表示されない場合、一旦電源を切って、やり直して下さい。
- (3) [2]を押します。[2:DOWNLOAD]が選択状態になります。
- (4) [ENT]を押します。[DOWNLOAD]が表示されます。
- (5) [1:FILE]が選択されていますので、そのまま[ENT]を押します。[DOWNLOAD FILE]と[\*\* Waiting \*\*]が表示されます。この状態で CU に置いて、PC 側で上記の操作を行って下さい。  
※[Communication error]が表示された場合、[ENT]を押すと、再度受信待ち状態となります。
- (6) プログラム受信が完了すると、「\*\* Completed \*\*」と表示されますので、そのまま電源を切って下さい。
- (7) 再度、電源を入れると、新しいプログラムが実行されます。

### ※注意※

上記で記載した「SYSTEM MENU」は、様々な設定の変更が可能な画面であるため、上記で記した操作以外は絶対に行なわないでください。HT が正しく動作しなくなる可能性があります。

# 6. HT 側操作

## 6-1. 基本操作

ここでは、HT の基本的な操作や振る舞いについてご説明します。

電源を入れたり、切ったりするには本体下部にある、[⏻]キーを押して下さい。

電源を入れた状態で一定時間放置すると、自動的に電源が切れます(時間は[システム設定]-[自動電源 OFF]にて設定が行えます)。

電源が切れた後、再度電源を入れると、前回電源が切れた画面から処理が再開されます。

[M1]キーを長押し(1 秒間押し続ける)すると、[システム設定]にて行えない以下の設定が行えます。再度、[M1]を長押しすると元の画面に戻ります。

- ▶ 「ブザー音量」・・・[F5]/[F6]キーで「ブザー音量」を選択状態にし、[F7]/[F8]で音量を調節します。
- ▶ 「バイブレータ」・・・[F5]/[F6]キーで「バイブレータ」を選択状態にし、[F7]/[F8]でバイブレータの ON/OFF を設定します(バイブレータの設定は[システム設定]-[音(バイブ)]でも行えます)。
- ▶ 「明るさ(通常)」・・・[F5]/[F6]キーで「明るさ(通常)」を選択状態にし、[F7]/[F8]で通常時の画面の明るさを設定できます。
- ▶ 「明るさ(省電力)」・・・[F5]/[F6]キーで「明るさ(省電力)」を選択状態にし、[F7]/[F8]で省電力時の画面の明るさを設定できます。
- ▶ 「省電力」・・・[F5]/[F6]キーで「省電力」を選択状態にし、[F7]/[F8]で「明るさ(通常)」から「明るさ(省電力)」になるまでの時間を設定できます。

[BS/C]キーは、押してすぐ離すと[BS]キー(入力中の文字を一文字戻す)、長押し(1 秒間押し続ける)すると[C]キー(中止/入力中の文字をクリアー)として機能します。

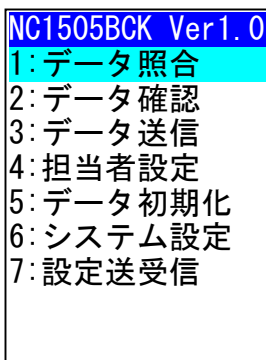
バーコードを読み取るには、[SCAN]キーを押したまま読み取ります。何か読み取るか、5 秒間押し続けると読み取り光が消えるので、再度読み取りを行う場合は、一旦、[SCAN]キーを離してから、再度押して下さい。

各メニューでは、[F5]/[F6]で項目を移動するか、行先頭の番号をテンキーで押して選択状態とした後、[ENT]を押すと、その処理が開始されます。

照合結果の保存件数は、最大 5 万件です。

## 6-2. メインメニュー

最初に電源を入れた時に表示される画面です。各処理を分岐します。



- (1) [1]～[7]キーを押すか、[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各処理へ進みます。

## 6-3.データ照合

本システムの主処理となるデータ照合を行う画面です。本システムでは、2つのパターンで照合が行えます。どちらのパターンで照合するかは、[システム設定]-[照合]-[照合回数]にて設定を行います。

1:1照合・・・ある1つのバーコードと、他の1つのバーコードとの照合を行い、それを繰り返します。

1:N照合・・・ある1つのバーコードと、他の複数のバーコードとの照合を行います。

### 6-3-1.データ照合の流れ(1:1)

照合(1:1) 00000  
マスタバーコード  
をスキャンしてく  
ださい。

M1:終了

#### ■マスタバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) [SCAN]キーを押下して、マスタバーコード(照合元)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、データバーコード読み取り画面へ進みます。
  - (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合元(マスタ)]にて事前に設定して下さい。

照合(1:1) 00000  
マスタバーコード  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
データバーコード  
をスキャンしてく  
ださい。

M1:終了 M2:戻る

#### ■データバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) [SCAN]キーを押下して、データバーコード(照合先)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、照合結果を表示します。
  - (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
  - (4) [M2]キーを押すと、照合を行わず、マスタバーコード読み取りへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合先(データ)]にて事前に設定して下さい。
- ※マスタとデータバーコードの照合位置は、[システム設定]-[照合]-[照合桁]にて事前に設定して下さい。照合チェックにバーコード種も含むか否かは、[システム設定]-[照合]-[照合条件]にて事前に設定して下さい。

照合(1:1) 00001  
マスタバーコード  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
データバーコード  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
10/06 15:20:23  
照合OK

#### ■照合OK画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) 「照合OK」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
  - (3) 3秒間経過すると、マスタバーコード読み取り画面へ戻りますので、次の照合を行って下さい。
- ※3秒間経過しなくても、次のマスタバーコードの読み取りが行えます。
- ※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

照合(1:1) 00001  
マスタバーコード  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
データバーコード  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
10/06 15:20:23  
照合NG  
M2:確認

#### ■照合NG画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) 「照合NG」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
  - (3) [M2]キーを押すと、設定によりマスタ/データバーコード読み取り画面へ戻ります。
- ※[M2]キーを押した時にどちらの画面に戻るかは、[システム設定]-[照合]-[NG時取り扱い]にて事前に設定して下さい。
- ※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

## 6-3-2. データ照合の流れ(1:N)

**照合(1:N) 00000**  
 マスタバーコード  
 をスキャンしてく  
 ださい。

M1: 終了

### ■マスタバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) [SCAN]キーを押下して、マスタバーコード(照合元)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、データバーコード読み取り画面へ進みます。
  - (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合元(マスタ)]にて事前に設定して下さい。

**照合(1:N) 00000**  
 マスタバーコード  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 データバーコード  
 をスキャンしてく  
 ださい。

M1: 終了 M2: 戻る

### ■データバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) [SCAN]キーを押下して、データバーコード(照合先)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、照合結果を表示します。
  - (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
  - (4) [M2]キーを押すと、照合を行わず、マスタバーコード読み取りへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合先(データ)]にて事前に設定して下さい。
- ※マスタとデータバーコードの照合位置は、[システム設定]-[照合]-[照合桁]にて事前に設定して下さい。照合チェックにバーコード種も含むか否かは、[システム設定]-[照合]-[照合条件]にて事前に設定して下さい。

**照合(1:N) 00001**  
 マスタバーコード  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 データバーコード  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

10/06 15:20:23  
 照合OK

### ■照合OK画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) 「照合OK」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
  - (3) 3秒間経過すると、データバーコード読み取り画面へ戻りますので、次の照合を行って下さい。
- ※3秒間経過しなくても、次のデータバーコードの読み取りが行えます。
- ※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

**照合(1:N) 00001**  
 マスタバーコード  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 データバーコード  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

10/06 15:20:23  
 照合NG

M2: 確認

### ■照合NG画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
  - (2) 「照合NG」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
  - (3) [M2]キーを押すと、設定によりマスタ/データバーコード読み取り画面へ戻ります。
- ※[M2]キーを押した時にどちらの画面に戻るかは、[システム設定]-[照合]-[NG 時取り扱い]にて事前に設定して下さい。
- ※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

## 6-4.データ確認

データ照合を行い、保存されたデータを確認する画面です。データの削除も可能です。

```
確認 00010/00010
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
10/06 15:20:23
照合OK
M1:終了 F4:削除
```

### ■データ確認画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存位置と件数が表示されます。
- (2) [F6]または[F8]キーを押すと、次のデータを表示します。
- (3) [F5]または[F7]キーを押すと、前のデータを表示します。
- (4) 削除したいデータを表示した状態で、[F4]キーを押すとデータ削除画面に進みます。
- (5) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。

※[システム設定]-[データ保存]にて、「照合箇所にて保存」が設定されていると、ここでは読み取ったバーコード値ではなく、保存されている照合箇所だけが表示されます。

```
確認 00010/00010
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
削除しますか？
M1:戻る F1:了解
```

### ■データ削除画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存位置と件数が表示されます。
- (2) [F1]キーを押すと、表示データを削除してデータ確認画面へ戻ります。
- (3) [M1]キーを押すと、何もせずにデータ確認画面へ戻ります。





## 6-6.担当者設定

担当者コードを設定します。この情報は照合データの各レコードに保存されます。

<b>担当者設定</b>
現在の担当者 [XXXXXXXXXXXX ]
新しい担当者 [ ]
M1:戻る ENT:確定

- (1) 3行目には現在設定されている値が表示されます。
  - (2) 手入力の場合は、テンキーを使って入力してください(最大13桁)。文字や記号を入力する場合は、[SF]キーを押すと数字入力と英字入力が切り替わります。
  - (3) バーコードを使用する場合は、[SCAN]キーを押したまま読み取って下さい。13桁より大きい場合は、最初の13桁だけが有効です。
  - (4) [ENT]キーを押すと、入力/読み取られた値で設定を登録し、メインメニューへ戻ります。
  - (5) [M1]キーを押すと、何もせずに、メインメニューへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[担当者]にて事前に設定して下さい。

## 6-7.データ初期化

不要となったデータ、または送信済みのデータを削除する機能です。未送信のデータも削除できますので、十分ご注意ください。

<b>データ初期化</b>
データを初期化しますか?
M1:終了 F4:実行

- 初期化確認画面■
- (1) [F4]キーを押すと、保存されているデータを削除して、初期化結果画面へ進みます。
  - (2) [M1]キーを押すと、何もせずに、メインメニューへ戻ります。

<b>データ初期化</b>
データを初期化しました。
M1:終了

- 初期化結果画面■
- (1) [M1]キーを押すと、メインメニューへ戻ります。

## 6-8.システム設定

本システム全体の設定を行います。システム設定メニューでは、各設定を分岐します。

システム設定
1:照合
2:データ保存
3:送信後データ
4:バーコード
5:端末 ID
6:日時
7:自動電源 OFF
8:音(バイブ)
M1:終了 C:初期化

- (1) [C]キーを長押しするか、[1]~[8]キーを押すか[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各処理へ進みます。

## 6-8-1.照合設定

<b>照合設定</b>
1:照合回数
2:照合桁
3:照合条件
4:NG時取り扱い
M1:終了

- (1) [1]～[4]キーを押すか[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各処理へ進みます。
- (2) [M1]キーを押すと、メインメニューへ戻ります。

### 6-8-1-1.照合回数

データ照合処理のタイプを、1:1照合にするか、1:N照合にするかと設定します。

<b>照合回数</b>
1:1
1:N
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、照合設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずに照合設定画面へ戻ります。

### 6-8-1-2.照合桁

読み取ったバーコードのうち、どの部分を照合するかを設定します。

例1) マスタ開始桁を3、データ開始桁を5、照合桁数が6と設定した場合で、

マスタバーコード：1234567890、データバーコード：123434567890

と読み取られた場合、設定されている箇所は一致するので、この場合は照合 OK となります。

例2) マスタ開始桁を3、データ開始桁を5、照合桁数が6と設定した場合で、

マスタバーコード：1234567890、データバーコード：1234567890

と読み取られた場合、設定されている箇所は一致しないので、この場合は照合 NG となります。

<b>照合桁</b>
マスタ開始桁
[ 1 ] (1～99)
データ開始桁
[ 1 ] (1～99)
照合桁数
[ 20 ] (1～99)
M1:戻る ENT:確定

- (1) 入力対象は黄色い行で表示されます。入力対象は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) それぞれ、1～99の値が入力可能です。
- (3) 最後に、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、照合設定画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに照合設定画面へ戻ります。



## 6-8-2. データ保存設定

データの保存方法について設定します。

「全て保存」・・・保存データの中に、読み取られたバーコード値すべてを保存します。

「保存しない」・・・保存データを作成しません(照合チェックのみ)。

「照合箇所のみ保存」・・・保存データの中に、照合した箇所の値を保存します。

※照合箇所とは、[システム設定]-[照合]-[照合桁]でバーコード値から抜き出した部分です。

<b>データ保存設定</b>
全て保存
保存しない
照合箇所のみ保存
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

## 6-8-3. 送信後データ設定

データ送信後にデータを消去するか否かを設定します。

<b>送信後データ設定</b>
消去
保存
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。



### 6-8-4-3.JAN8

<b>JAN8</b>	
読み取り	
<b>する</b>	しない
後ろ1文字除去	
する	<b>しない</b>
M1:戻る ENT:確定	

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ1文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。

### 6-8-4-4.UPC-E

<b>UPC-E</b>	
読み取り	
<b>する</b>	しない
後ろ1文字除去	
する	<b>しない</b>
UPC-E 先頭0付加	
<b>する</b>	しない
M1:戻る ENT:確定	

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ1文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。  
「UPC-E 先頭0付加」・・・先頭に"0"を付加します。

### 6-8-4-5.ITF (Interleaved Two of Five)

<b>ITF</b>	
読み取り	
<b>する</b>	しない
後ろ1文字除去	
する	<b>しない</b>
CD 検証(MOD-10)	
する	<b>しない</b>
M1:戻る ENT:確定	

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ1文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。  
「CD 検証(MOD-10)」・・・モジュラス 10 でチェックデジットをチェックします。チェックデジットが間違っている場合、読み取れません。







## 6-8-5. 端末 ID 設定

端末 ID を設定します。この情報は照合データの各レコードに保存されます。

<b>端末 ID 設定</b>
端末 ID
[0001 ]
M1:戻る ENT:確定

- (1) テンキーで値を入力し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

## 6-8-6. 日時設定

システム日時を設定します。この情報は照合データの各レコードに保存されます。

<b>日時設定</b>
日付
[15/12/31 ]
時刻
[12:13:14 ]
M1:戻る ENT:確定

- (1) 値はテンキーで入力します。
- (2) 入力対象は黄色い行で表示されます。入力対象は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (3) 最後に[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

## 6-8-7. 自動電源 OFF 設定

操作せずに放置した場合に、電源が自動的に切れるまでの時間を設定します。

<b>自動電源 OFF 設定</b>
10 秒
30 秒
1 分
<b>3 分</b>
5 分
10 分
30 分
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

## 6-8-8.音(バイブ)設定

音やバイブレータの設定を行います。

**音(バイブ)設定**  
**通常設定**  
音ありバイブあり  
音ありバイブなし  
音なしバイブあり  
音なしバイブなし  
  
通常設定は音あり  
エラー時バイブ  
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

※音量の設定については、「6-1.基本操作」の「ブザー音量」を参照してください。

## 6-8-9.設定初期化

すべてのシステム設定を、購入時状態に戻します。

**設定初期化**  
設定を初期化しま  
すか？  
照合データは削除  
されません。  
  
M1:終了 F4:実行

- (1) [F4]キーを押すと、設定を初期化して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

## 7.販売者情報

システムのトラブルや不具合については、下記メールアドレスまで、ご連絡ください。  
本システムのアップデートなどの最新情報は下記 URL に記載しておりますので、ご確認ください。

### 日栄インテック株式会社

開発事業部 Auto-ID グループ

<http://www.barcode.ne.jp/>

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5

日栄インテック御徒町第1ビル

TEL:03-5816-7141 FAX:03-5816-7140

メール: [info@barcode.ne.jp](mailto:info@barcode.ne.jp)